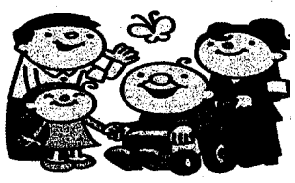


ふれあいのひろば

かわら版

平成16年10月1日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤　秀夫
印刷所　長谷川印刷(有)

納涼会　七月二十五日

連日の猛暑の続く中、日が暮れて幾分涼しい風が河原を吹きぬける様になった午後七時から始まりました。

今年はお父さん、お母さんも入れて二五〇人も観賞しました。8～2区の鈴木凛（六才）さんとは、凧揚げ大会でお会いして以来の再会。

久保田優斗（四才）君は仙台から来ました。六区畑中雅史（六才）君、美月（四才）ちゃんは、花火を見るのが楽しみで、自分達でカレンダーに印をつけてこの日を待っていたそうです。皆さん大喜びでした。（青少年部）

（廃棄物問題）五期目補助員勉強会

今年で第5期目の廃棄物減量指導員補助員対象の衛生部勉強会を高齢社会部勉強会と合同で7月31日・8月1日・7日・8日の四回極暑の最中に行いましたが通算百三十五名の方達が参加しました。

今回は既に各ゴミ集積所の貼り札、或は回覧及び各家庭に配布のリーフレット等で、ご存じの通りの4月から変更になった小物金属（無料）と粗大ゴミ（有料）の出し方を中心に、補助員の方達が地域の皆様とのご相談に対応出来る様に学びました。小物金属は資源物の日に出せません。粗大ゴミと同様、事前に粗大ゴミ受付センターに申し込み打合せて下さい。

不法投棄は、犯罪です。ルールを守り、明るくきれいな町づくりにご協力をお願いします。（衛生部）

ミニ・ディサービス　ひらまの里と共催

ひらまの里と共催のミニ・ディサービスが2年目になりました。

6月24日は講師として、中原区健康福祉センターから藤原保健師

藤原保健師さん

8～1・8～2区の集会

災害救助隊（仮称）モデル地区が活動開始

地域に根を下ろした防災対策として、各家庭と隣組の人達がスクラムを組んで、共助の体制づくりを進める活動が始まりました。

4区、5区、7区、8～1区、8～2区がそれぞれの区域で集会を持ち、地域の実情に即しつつ、幾つかの第1次避難所を選定し、そこを基点としたグループを作る作業を開始しました。（防災部）

カタツムリは語らず　8・15終戦記念日に思う

アメリカ領テニアン島と言われても、すぐ判る人は、もはや少ないであろう。だから第二次大戦の末期に、この島からB29が飛びたって、広島、長崎に原子爆弾を落としたと話せば判る筈である。

米軍はテニアン島が小さいけれども、平らな地形なので航空基地として、どうしても欲しかった。

テニアン島の日本海軍守備隊の司令部は、頑丈なコンクリート造りの3階建で要塞である。この要塞が艦砲射撃で徹底的に破壊され守備隊は全滅したが、要塞の床下50センチ程の隙間に、無数のカタツムリの穀が散乱している。

日本兵が糧食が尽き、夜中に這い出てくるカタツムリを、這いつくばって食べた穀である。妻子や肉親と離れてこの地で亡くなった兵隊さんは、さぞかし無念の思いだったろう。訪れる人も無いまま60年後も、そのままの姿で残っているが、アメリカ領でもあり、カタツムリごときに関心を払う人は居ない。忘れ去られる運命にあるが、いま激戦地の跡は南国の輝く太陽の下、しんと静まりかえっている。勿論、カタツムリは黙して語らない。＝投稿＝

夢見亭わっぱさんの熱演

夢見亭わっぱさんの熱演

楽しい旅行をするために」のテーマで講話をお聞きしました。旅行は気分転換、痴呆予防など健康にとても良いとのこと。滅多に聞けない旅行医学の話が聞けました。7月22日には、川崎市消費者行政センターの幹旋で、「夢見亭わっぱ」さんの落語を堪能しました。テーマは、古典落語、SF商法に御用心、悪質商法あれこれ、で爆笑の渦が続きましたが、笑いの中でも大変に為になるお話でした。（高齢社会部）

「ひらまの里」阿部市長が敬老

去る8月6日、阿部川崎市長がひらまの里特別養護老人ホームを敬老に訪れ、入居者やディサービスに出席していたお年寄一人ひとりと言葉を交わし、握手してまわりました。すみず偶々、この日は金曜日でシーツ交換のボランティアの日でしたので、第二町会のボランティアのメンバーにも、市長からねぎらいの言葉がありました。

Mt・キナバル山（4,101m）登頂6日間の旅

コタ、キナバル山は、マレイシアの、キナバル国立公園の中に聳える東南アジア最高峰として有名な山である。施設や登山道は良く整備されており富士山のように頑張れば誰でも登ることができる。しかし、その姿は富士山と対照的で、女性的な富士山に対して、キナバル山は力強い男性的な山です。

けれども、その中には熱帯特有の、実に多くの動植物を育み、母なる山でもある。登山をしない人は公園内をハイキングするだけでも楽しめる。

さて、成田空港よりマレーシア航空で、シンガポール経由でコタキナバル空港へ、約9時間の飛行の旅（時差約2時間）到着後昼食。料理は中国料理が多い。食事後専用バスで市内観光（美術館・寺院）をして登山基地へ向かう。途中広大なバナナ畑が車窓から眺められその奥にキナバル山の全容が見えてくる。道中ドライブインに立ち寄り、珍しい果物を食べ、お土産を買って目的地へ、パークヘットクォーターホテルに泊まる。

翌日ガイドポーターと共にバスで登山口へ、いよいよ登山開始、登山ゲイトをくぐり亜熱帯特有の蒸し暑い熱帯林を進む。途中雨に降られ山小屋で昼食、人慣れしたリスが寄ってきて、餌をあげて大喜び、高度を上げながら森林限界を越えて、標高3300mのレストハウスに到着する。

翌日朝3時ヘッドランプを頼りに、最高峰（4101m）のローズピンク山頂に向かって出発する。暗い夜道を丸太の梯子を登り3700mを越える辺りから夜も明け視界が開けてくる。登山道の山肌は、何十畳もあろうかと思われる、岩畳を敷き詰めたような岩盤が幅200mもあろうかこれが山頂まで続く。滑らかな岩肌だが滑らない。登山道の中間に直径15cm位のロープが山頂まで張られている。霧が出た時の遭難防止だそうだ、左右にマッシュルームピーク、ドンキーヤーズピーク、サウスピークなどの奇岩・美岩を見ながらゆっくりと登る。

標高4000mを越えると空気も希薄になってくる。呼吸も少し苦しくなり歩きも遅くなる。岩の割れ目に力強く生きる高山植物がとても綺麗だ。約5時間ほど登って山頂に到着。

山頂からの展望も素晴らしく、30分程堪能して下山する。富士山より高い山の挑戦は初めてで心配していたが、無事登頂出来て楽しかった。

翌日は、サビ島（無人島）で海水浴、人慣れした熱帯魚と戯れて楽しい1日を過ごして帰国する。

投稿＝1区在住　青木源司

掲示板が装いを新たに

町会内に12箇所設置されている掲示板は、町会員の皆様に接する町会の顔であります。掲示板を見る皆様に汚れた顔は見せられません。そこで、梅雨入り前の晴天の日を選び3日間かけてペンキの塗りなおしをしました。装いを新たにした掲示板です。皆様、ぜひ立ち止まって良く見るようにして下さい。（広報部）

熱心に作業する役員さん

止めさせよう不法投棄　守ろうゴミ廃棄のルール

不法投棄は後を絶ちません。ゴミ廃棄のルールも、依然として守られていない情況です。

自分だけ良ければ他人の迷惑は構わないというモラルの欠如は、とても情けないことです。他人から注意される前に、自分でルールをしっかり守りましょう。

不法投棄行為やルール違反を皆んなで監視して、きれいな町にしましょう。（衛生部）

2区、旺電社脇道路

婦人方さんは料理の名人 囲碁、将棋の会を支える

町会文化部の囲碁、将棋の会は会員数20人を擁し、発足してから6年が経ったが、毎月第一及び第三日曜日に町会会館で楽しく賑やかに対局が行われてる。

それを陰で支えている女性が、上妻よし江さんと持木幸子さんのお2人で、２００円で大変に美味しい昼食をご馳走してもらえる。

お2人に動機を伺うと、最初はご主人にお弁当を持たせたが、参加者はコンビニで弁当を買ってきたり、愛妻の作ったおにぎりを持ってきたり、外食したり、まちまちだったが、とても不便の様子がうかがえた。そこで昼食を考えついたとのこと、以来6年間続いていることには全く頭が下がる。

お2人は料理を作る苦労は無いが、メニューを考える苦労は大変と言われる。高齢の人向けに揚げ物は少なく、煮物を中心にする。旬の物を使う。ゆず、にんにく、にら、しそ等の好き嫌いのある物は全体の料理の中には入れず。小皿に盛る様にする。２００円の予算なので毎週の安売りの品をチラシで見て買うようにする。この様に大変に工夫をこらした料理の味は、1区の加藤忠夫さん、7区の岩本寅二さん始め、会員の皆さんが大変美味しいと楽しみにしている腕前である。そして、この昼食は囲碁、将棋の会を支える陰の人気の一つとなっている。昨年末の忘年会には、お二人を招いて会員の感謝の気持ちをお伝えした。

ところで、囲碁、将棋の会は老年、壮年、青年、少年、男性も女性も、初心者も、誰でも歓迎しますので、近所の町会役員に申込して下さい。

（文化部）

左から上妻よし江、持木幸子さん

★思い出コーナー★ 和太鼓トルコ公演

長い長い飛行機の旅を終え、私達「祭音」（和太鼓グループ）のメンバーは、トルコへ到着した。空港では、待ってました！とばかり現地の旅行社の人達が“ようこそ祭音のみなさん”と書かれた垂れ幕を持って出迎えてくれた。それを見た時に、今迄あった不安が一気に吹き飛んだ気がした。

２００３年8月20日から29日迄のトルコの旅、公演はトルコ各地で3回。チャウシン村、キャラバンサライ、石灰棚、どの場所でやっても、観客は終始笑顔で私達の演奏に聴き入ってくれていた。そのおかげで、演奏しているこちらも嬉しくなり気分よく太鼓が叩けました。

また、トルコでは日本での公演と違う新鮮な反応を見られるのも面白かった。キャラバンサライでの公演では、終わっ後に太鼓を不思議そうに眺めていく人や、メンバーから、バチを借りて叩いている人もいた。

現地の人との交流はとても充実していて、3回の公演の他にも、色々な文化交流の場もありました。先ずはロータリークラブが祭音が宿泊するホテルでウェルカムパーティーを開催してくれて、そのお礼に太鼓を演奏し小さな子や大人の方達も興味深々に見ている姿がとても印象的でした。次は洞窟レストランで、地元の伝統芸能集団との交流。結婚式でよく踊られるというダンスを見せてもらい、教えてもらった。最後は皆で、そのダンスを踊り楽しみました。他にもホームスティーをしたり町の人達と触れ合う機会も多くありました。

私は、このトルコでの公演で多くの人達と知り合い、交流を深めることができ、和太鼓を通して現地の人達に日本の伝統文化を伝える事ができた事はとても良い思い出となりました。言葉は通じなくても、和太鼓が奏でる音で気持ちや伝統は伝わるものと思いました。まだ16年しか生きてないけれど、人生で一番の思い出です。

高校二年　鈴木真末・三区在住

前列左から二人目が鈴木真末さん

老夫婦の旅だより⑬ タイの船頭見習いの少年

タイのバンコク市内を滔々と流れるチャオプラヤ川は、沢山の水草とともに、渦巻くように勢い良く流れている。

遥か東方の国から観光に訪れた老夫婦は、バンコク郊外のチャオプラヤ川に面したマリオット・リーバーサイド・ホテルに宿泊して、元旦の巨大な日の出と正月の雰囲気に浸ろうとしていた。午前0時物凄い花火の爆竹の音と大きな歓声が聞こえて元旦を迎えた。

ホテルが郊外のため、町の中心部へはホテル専用の船で行き来しなければならない。船頭はハッピを着てきびきびと操船している。傍に10才前後の少年が居て、熱心に船頭の動作を見ている。親子だと直ぐに判った。父親は操船の節目ごとに声を掛けている。一生懸命に今から父の職業を継がせようと仕込んでいるのに違いない。

日本でも一昔前までは、職業の世襲は多かった。老夫婦はこの少年が学校を出て、別の道を選ぶのか、父のあとを継いで船頭の道を進むのか、少年の利発そうな顔ときびきびした動作を見て、父の望みは徒労に帰すのではないかと話合うのだった。

＝投　稿＝

ストレス解消 ぶらり旅③

サラリーマンが管理職となって責任ある地位につくと、多くの人は仕事の重圧と人間関係に悩み、その心労たるや、他人に理解されることはない。十数年前、悩みを抱え、気分転換を図るために、休日は必ずガイドブックを片手に、ぶらり散歩に出かける習慣ができた。昔日のことが懐かしく、再びかっての“ぶらり旅”の跡を訪ねてみることにした。

東急大井町線上野毛駅から5分のところに、五島美術館がある。お屋敷町に入って鬱蒼と茂る森の中に、黄土塀に囲まれて平屋建てのゆったりとした感じの建物である。この五島慶太氏の蒐集品の白眉は国宝・源氏物語絵巻（平安時代後期12世紀）と国宝・紫式部日記絵巻（鎌倉時代13世紀）である。ただ、この国宝の絵巻は展示される期間が限られていて、源氏は4月29日から5月9日迄の正味9日間で、紫式部は10月9日から17日の正味8日である。今年の源氏は第38帖鈴虫1・2、第39帖夕霧、第40帖御法の13面であった。絵物語には光源氏、女三宮、夕霧、雲居雁、明石中宮、紫の上、等が描かれている。

和漢朗詠集・平安時代の紀貫之の歌「さくらちるこのしたかせはさむからでそらにしられぬゆきそふりける」、古今和歌集・平安時代の紀友則の歌「ひとしれぬおもいのみこそわひしけれわかなけをわれのみそしる」なども展示されていて、観客も疎らでゆったりと観賞することができた。他に鎌倉時代を中心とした絵巻、例えば、北野天神縁起絵巻、前九年合戦絵巻、後鳥羽院本三十六歌仙絵、為家本三十六歌仙絵など重要文化財重要美術品が沢山にあって、鑑賞する価値が十二分にある。

初夏のまぶしい陽を浴びて、古の絵巻物等にふれ、深い文化の薫りに浸ることができた。この十数年ぶりのぶらり散歩、懐かしい対象が沢山にあるので、当分続けることになりそうだ。

＝投　稿＝

アンネ・フランクの悲劇

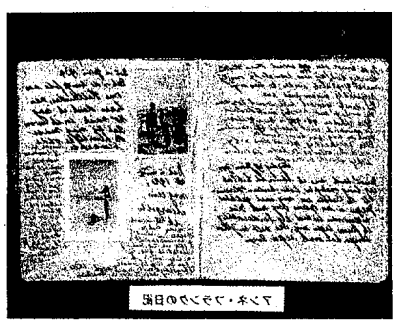
青い空よ、どうしてお前はそんなに青いんだ。我々が滅ぼされる時に、どうしてお前は、そんなに美しい～滅ぼされたユダヤの民の詩より～。真っ青に晴れて輝く陽の中、ポプラの大木が空高く枝を突き立てている。ここはポーランドのアウシュビィッツ収容所跡、ポプラの木は60数年前の悲劇の一部始終を見ていたが、黙して語ることは出来ない。おそらくは、この収容所で百五十万人の罪無き人の命を奪ったナチス・ドイツの狂気に恐れ慄いたことであろう。

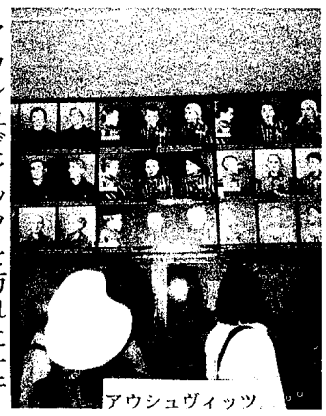
この収容所跡の壁には、囚人服を着せられた少年、少女達の笑顔の写真が掛けられているが、まさか殺される運命とは知らず、とても可愛らしい表情をしている。

１９４４年9月ユダヤ人のアンネ・フランク一家は密告によりオランダの隠れ家で捕まり、この絶滅収容所に送られてきた。そしてアンネは15才の短い生涯を閉じることになる。アンネ一家が2年間に渉り隠れ住んだアムステルダムの家には、この悲劇の少女の日記帳が展示されている。

「もしも神様の思し召しで生きることが許されるなら、つまらない人間で一生を、終わりはしません。きっと世の中のため、人類の為に働いて見せます」と１９４４年4月11の日記にある。

実際の日記帳を見ると誕生日に父から贈られた赤い表紙のサイン帳に、これ以上は書けないと思えるほど、びっしりと詰めて綺麗な字で書かれている。部屋の壁にはアンネの張った写真やプロマイドが、60年後の今でもそのままに残っていて、訪れる人の心を痛めずにはおかない。





アウシュヴィッツ

アウシュビィッツを訪れた一行の一人は、「人間は考えも及ばない程、残酷なんですね」と衝撃を受けていたが、私も偶々訪れたオランダとポーランドで、アンネ・フランクの悲劇の生涯等に遭遇しナチス・ドイツの残酷さに鳥肌が立ったが日本も戦争を引き起こしており、広島、長崎等の悲劇も体験している。歳月が経過し、痛ましい出来事が風化していくのを心から恐れるものである。　蜃気楼

短歌

打ち上ぐる湖上に開くとりどりの
花火の妙技にじっと見惚れぬ

みずうみの夜空に描く花火像
消えつ光りつこの仕掛けこそ

門口にそっと佇む老婦人
北京の夕に影落しつつ

霞みつつ遥かに消える長城を
茜に染めて陽は沈みゆく

川柳

保険庁何をしてたか五十年
（善一郎）

年金を減らす減らすと恫喝し
（政治家）

高令者いたわる美談見付からず
（マスコミ）

俳句＝天神台句会

来し方を噛みしめて居り終戦日
甲子園の球児の涙爽やかに
山路行く帽子に止まる赤蜻蛉
荒井　スミ

腸をまず食いにけり初秋刀魚
芒折り芒じゃないと言われけり
炎昼や頭の真中に突き刺さる
佐藤　輝之

セピア色の原を彩るななかまど
枯野中人待ち顔のとりかぶと
忘れじの刻惜し尾瀬の草もみじ
（尾瀬三題）高山　房子

新米の香る夕餉に子の笑顔
牛蛙鍬振る我れに応援歌
親を真似幾度も習う子鴨かな
滝口　園美

母の背で手を触れている日傘かな
避暑の宿妻と嗜む地酒かな
夜霧濃く瀬音遠くに山の宿
堤　秀夫

暑さ負け知らぬゴーヤは花と実を
夕涼み赤いぐらすに頬染し
庭を見て花ありつぼみ嬉しいね
鳥澤　重子

老木や春の目ざめにしん芽ふく
素晴らしきシャクナゲの花庭はづれ
花模様川面に映る花火かな
森　善一郎

お知らせコーナー

「秋の交通安全運動」

四町会連合の秋の交通安全運動が実施され、第二町会は9月22～24日の3日間、役員が協力して啓発を行いました。今回からは早朝通勤時間帯の人通りの多いガス橋通りに重点をおきました。

（交通部）

「行事予定」

- 赤い羽共同募金に協力　10月
- 八幡大神例大祭　10月2～3日
- 救急救命訓練講習会　10月9日
- 玉川地区連合運動会　11月3日
- 親子ふれあい芋煮会　11月
- 年末助合募金に協力　12月
- 歳末警戒・夜警パトロール　12月29日～30日

※お断り

今年は9月20日が敬老の日と定められ、それに合わせて町会でも敬老会を開催しました。その様子は新年号でお伝えいたします。